

令和6年度 江戸川区立西葛西小学校 学校関係者評価報告書(学校経営計画・学校関係者評価シート)

学校教育目標	○考える子 ○心豊かな子(重点目標) ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○児童が明るく元気に学び合える学校(児童が通いたい学校) ○保護者が安心して子供を任せられる安全な学校(保護者が通わせたい学校) ○地域に開かれ、地域に信頼される学校(地域が応援したい学校) ○教職員が協力し合い、自分の力を発揮できる学校(教職員が働きたい学校)	
前年度までの本校の現状	成果	課題	ICT研修を実施したことで教員のICTスキルが向上。タブレット端末を使った学習については90%の児童が「分かりやすい」と回答した。 ・「休み時間に外で遊んでいる」児童はR4年度より15%増加。体カテストの計測数値が前年度比5項目で向上(各学年平均)。「すもう大会」をコロナ禍前の方法で3年ぶりに開催。	不登校児童本人の特性に合った居場所づくりの推進。別室指導員の活用、エンカレッジルーム、学校サポート教室や共有プラザへの登校などを促す。 授業時数と会議を減らし業務改善を推進。子供と向き合う時間の確保や授業力向上につなげる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進による主体的・対話的で深い学びの実現 ・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得 ・特別活動の充実による自主的・実践的な態度の育成	・朝学習、放課後補習教室を年70回以上実施 ・3~6年生の習熟度別少人数算数授業の実施 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の1日1回以上の実施 ・江戸川っ子study week!の学期1回の実施 ・過程を大切にしたい学校行事の実施	・東京ベーシックドリルで80%以上の児童が、正答率80%以上達成 ・児童アンケート「学習することが楽しい」85%以上 ・「学校生活が楽しくなるように、係活動や学校行事などにすすんで取り組んでいる」85%以上			B	・児童アンケート「学習することが楽しい」91%で昨年度とほぼ同様の結果である。 ・「学校生活が楽しくなるように、係活動や学校行事などにすすんで取り組んでいる」90%と学習や行事に対して前向きに取り組んでいることがわかる。 ・東京ベーシックドリル(7月)の正答率80%以上の達成率は、2年36.5%、6年31.2%で未達成である。4・5年は学力定着度調査平均正答率は(4月・算数)は4年83.3%、5年75.3%である。	B	・目標が高いのか、ベーシックドリルを目標とすることでいいのか、再検討が必要。 ・学力が向上するように手立てを考えてほしい。					
	<教員の専門性向上> ・教員の専門性を生かす指導体制の充実 ・校内研究の充実	・高学年における教科担任制の実施 ・全学年における授業研究及び協議会の実施	・児童アンケート「教科担任制での学習は分かりやすい」85%以上			A	・本校では、5年生4学級で理科と社会科、6年生3学級で国語・理科・社会科の教科担任制を実施している。児童アンケート「教科担任制での授業は分かりやすい」は91%であり、今後も授業を充実させていく。 ・1学期は2年生の校内研究授業を実施した。2学期以降全学年で行う。	A	・教科担任制は、児童にとっては、いろいろな先生と関わることができる。相談できる関係も構築できる。 ・教師にとっても教材研究を十分できるし、2回目以降の授業に活かすことができている。					
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の充実	・全クラス学期3回以上の図書館活用 ・読書科研修の充実 ・学校司書の活用 ・学校図書館の環境整備 ・国語科の校内研究と関連させた読書活動の充実	・全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施 ・児童アンケート「進んで読書をする」80%以上			A	・西葛西団体貸出レファレンスの利用が1学期複数学年(2・4・6年)で行われ読書科で活用された。 ・児童アンケート「進んで読書をする」は81%であり昨年度2回目の結果より9%向上した。(保護者69%変化なし)	A	・読書はどうしても個人の偏りが出してしまう。団体貸出の利用や調べ学習を推進することで、多様なジャンルの本に触れる機会となる。 ・保護者は「すすんで」という言葉に引っかかっているのかもしれない。家庭ではタブレットに触れている時間の方が長い。					
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・運動意欲や基礎体力の向上を図る取組の実施・充実	・なわ跳びウィークを年3回実施 ・晴れた中休みは外遊び実施 ・運動を得意としない児童への十分な配慮	・児童アンケート「外遊びをよくしている」80%以上 ・体カテスト各種目の平均点において半数以上の種目で区平均以上			A	・「休み時間に外遊びをよくしている」児童は85%と昨年度と同様の結果である。 ・体カテストは5月から練習期間を設け、6月に全校一斉実施した。なわ跳び週間やなわ跳び出前授業を通して運動に親しみきっかけづくりを醸成できた。	A	・なわ跳び等を活用して、体力づくりに励んでほしい。					
	<健康の増進> ・食に関する指導の充実 ・歯を磨く習慣の定着	・味覚の指導 ・給食後の歯磨きタイムの設定 ・フッ化物洗口の実施	・保護者アンケート「歯を磨く習慣」80%以上			A	・保護者アンケート「歯を磨く習慣が身に付いている」は83%である。(児童85%)6月から給食後の歯磨きタイムを実施している。 ・フッ化物洗口については5月学校公開で保護者説明会を実施し同意書を回収、運動会後に実施予定である。	A	・保護者、児童の回答がほぼ同数なので、歯磨きが習慣化されていることが伺える。 ・学校からの声掛けを引き続き行い、家庭と連携してさらに歯磨きを推進してほしい。					

教育の推進	共生社会の実現に向けた	<ul style="list-style-type: none"> ＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画の作成 ・校内委員会を月1回実施 ・毎時間のエンカレッジルーム担当教員の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所、幼稚園等との交流を1回以上実施 ・児童アンケート「友達を大切にしている」90%以上 			A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内委員会(月1回)生活指導タ会(金)を通して、配慮が必要な児童の情報を共有し、エンカレッジルームでの個別対応に活かしている。一方、保護者アンケートは「分からない」が53%である。学校側の取り組みをどう発信していくかが課題である。 ・児童アンケート「友達を大切にしている」は昨年度同様95%である。(保護者99%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も児童に配慮した取り組みを継続し、エンカレッジルームなどを活用して対応して欲しい。 				
	不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> ＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・教育相談の強化 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応 ＜不登校対策の充実＞ ・組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川区子どもの権利条例の理解 ・児童の心に響く共感的な生活指導 ・いじめの授業やいじめアンケートを年間3回実施 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催 ・日常的な観察や情報共有 ・校内における居場所づくり ・関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率10%以下 ・いじめの早期発見、解消率100% ・不登校児童の関係諸機関との連携100% 			A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月のふれあい月間でいじめアンケートを実施。結果を集計し、いじめ防止対策委員会での共有をした。今後、11月、2月と実施する。 ・Hyper-QUは6月に実施した。結果が届き次第、児童への生活指導及び学級経営に活用していく。 ・不登校児童の保護者と担任との電話相談、家庭訪問を実施している。日常的に情報共有を行い、校内における居場所づくりに繋げている。 ・保護者アンケート「教員は児童の悩みごとや困ったことに寄り添っている」は84%である。(昨年度も同様) ・関係機関との連携は随時進めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Hyper-QUの結果を生活指導及び学級経営に活用して欲しい。 ・家庭で安心感を得られている児童もいるのではないと思う。その児童にとっては学校は支えであると思う。 ・今後も注意深く一人一人の児童を見取り、保護者からの相談に対して管理職と担任で組織的に対応して欲しい。84%に含まれない16%が実は悩みをもっているかもしれない。 ・児童自身が相談できる環境づくりを進めて欲しい。相談から何か糸口が見つかることもある。 				
学校(園)の実現	地域社会に開かれた	<ul style="list-style-type: none"> ＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実 ＜保護者・地域の方々の協力による教育活動の推進＞ ・保護者、地域人材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの毎日の更新 ・学校公開の充実 ・学校応援団、読書ボランティア、授業ボランティア等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ閲覧数昨年度比100%以上 ・学校公開への参加率90%以上 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」80%以上 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」80%以上 ・保護者アンケート「保護者・地域人材の活用」は93%である。 ・1学期は体力テストや読み聞かせ、生活科町探検で保護者ボランティアを募り、教育活動を推進できた。 			A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「教育活動の公開度」は96%であり、昨年度より1%向上した。(昨年度と同水準) ・学校公開 5月参加率72%、わくわくすもう大会92%、6月90%である。 ・学校ホームページは毎日更新している。昨年度3月と比較し、6月の訪問数は3倍、閲覧数は2倍と確実に伸びている。 ・学校の授業は楽しい(93%)教科担任制(88%)係活動・行事への取り組み(93%)保護者・地域の人材活用、学校からの発信、働き方改革については肯定的な意見が90%近い。 ・「学校評価について学校の様子が分かる」は、71%であり、「よく分からない」16%なので、分かりやすい評価分析の公表が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新頻度が高く学校の様子がよく分かる。今後も継続して欲しい。 ・地域のコミュニティも縦で動いているところが多いので、西葛西小内にとどまらず、横の広がりができていくとよい。 ・評価が高かった項目は現状のまま取り組みを継続していく。 				
	特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> ＜特色ある教育施設を生かした教育活動の推進＞ ・土俵の活用 ・愛鳥モデル校 ＜防災意識の向上＞ ・防災教育の実施 ＜学校における働き方改革＞ 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくすもう教室」や「わくわくすもう大会」の実施 ・巣箱づくりの実施 ・高学年児童を対象とした防災に関する授業の実施 ・学校経営支援を担う人材の導入 ・校務の精選と見直しの継続的実施 ・定時退勤の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「特色ある教育活動の実施」80%以上 ・当日の児童アンケートにおける肯定的な回答90%以上 ・学校評価(教職員)での働き方改革推進に関する項目のA評価70%以上 			A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「特色ある教育活動の実施」は97%、今度も学校公開、HP等を通じて、学校の取り組みを発信していく。 ・1学期は実施なし ・学年アシスタントの配置(低学年)、SSSの活用などを通じ、印刷、アンケート入力などの仕事を依頼できる環境が整ってきた。 ・教職員A評価48%、B評価48%、C評価4% ・職員による改善案を集約し、校務の精選と見直しを実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・西葛西小伝統の相撲を今後も継承して欲しい。 ・働き方改革で生まれた時間を授業の工夫に活用して児童に還元して欲しい。 				
								—		—				